

## 町内外 58 箇所での仮設住宅建設



▲志津川中学校の校庭で始められた仮設住宅建設（2011（平成 23）年 4 月 14 日）

当初は約 1 万人の住民が避難所で暮らした南三陸町。町内外の民間アパートを「みなし仮設」として使用すると共に、仮設住宅の建設が直ちに始められた。しかし、まとまった戸数の仮設住宅を建設できる平地は学校の校庭や町営の運動場しかなく、用地探しは困難を極めた。その結果、隣接する登米市に仮設住宅団地を建設させてもらうことになり、登米市南方に、仮設住宅団地の中で最大規模の 351 戸が 2011（平成 23）年 6 月に完成した。町内では小さな用地に建設するしかなく、自衛隊に要請し、

使えることが確認できた土地から整地を進めてもらった。

同年 8 月中旬完了を目標に、町内と登米市に 58 団地計 2,195 戸のプレハブ仮設の整備が進められた。2012（平成 24）年 2 月のピーク時には 1,941 世帯 5,841 人が仮設住宅に入居。58 カ所の団地が分散する中で、被災した住民たちへの生活支援も大きな課題となった。



▲志津川中学校校庭の仮設住宅建設  
2011（平成）23 年 4 月 26 日